
定義

剰余類群

整数を n で割った余りの等しい整数を同じもの (剰余類) として集めた集合を剰余類群といい、 $\mathbb{Z}/n\mathbb{Z}$ と書く。

整数の加法 (+) をそのままこの剰余類群の演算として定義できる。

準同型写像 (群)

G, H を群とする。

$$f : G \rightarrow H \quad (1)$$

写像 f が準同型であるとは次を満たすときをいう。

$$[\forall a, b \in G] \quad f(ab) = f(a)f(b) \quad (2)$$

この時、単位元 $e_G \in G, e_H \in H$ について、 $f(e_G) = e_H$ が成り立つ。

問題

$\mathbb{Z}/6\mathbb{Z}$ と $\mathbb{Z}/9\mathbb{Z}$ を加法群とみなす。

1. $1 \in \mathbb{Z}/9\mathbb{Z}$ は $\mathbb{Z}/9\mathbb{Z}$ の生成元となることが正しいか否かを答えよ。

.....
 $\mathbb{Z}/9\mathbb{Z}$ の要素は次の通り。

$$\mathbb{Z}/9\mathbb{Z} = \{\bar{0}, \bar{1}, \bar{2}, \bar{3}, \bar{4}, \bar{5}, \bar{6}, \bar{7}, \bar{8}\} \quad (3)$$

これらは以下の演算により計算できる。

$$\bar{0} = \bar{9} = \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} \quad (4)$$

$$\bar{1} = \bar{1} \quad (5)$$

$$\bar{2} = \bar{1} +_9 \bar{1} \quad (6)$$

$$\bar{3} = \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} \quad (7)$$

$$\bar{4} = \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} \quad (8)$$

$$\bar{5} = \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} \quad (9)$$

$$\bar{6} = \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} \quad (10)$$

$$\bar{7} = \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} \quad (11)$$

$$\bar{8} = \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} \quad (12)$$

$$(13)$$

よって、 1 を生成元とする部分群 $\langle 1 \rangle$ は $\langle 1 \rangle = \mathbb{Z}/9\mathbb{Z}$ であることが分かる。

$\mathbb{Z}/6\mathbb{Z}$ の元は 6 個足すと $\bar{0}$ になるので、上の式は次のようになる。

$$\bar{0} = f(\bar{1}) +_6 f(\bar{1}) +_6 f(\bar{1}) +_6 \bar{0} \quad (23)$$

よって次の式が得られる。

$$f(\bar{1}) +_6 f(\bar{1}) +_6 f(\bar{1}) = \bar{0} \quad (24)$$

$\forall a \in \mathbb{Z}/9\mathbb{Z}$ とする。

a が n 個の $\bar{1}$ の和として表されるとする。

$$a = \sum_{k=1}^n \bar{1} \quad (25)$$

これを用いて $f(a)$ の和を考える。

$$f(a) +_6 f(a) +_6 f(a) = f\left(\sum_{k=1}^n \bar{1}\right) +_6 f\left(\sum_{k=1}^n \bar{1}\right) +_6 f\left(\sum_{k=1}^n \bar{1}\right) \quad (26)$$

$$= \sum_{k=1}^n f(\bar{1}) +_6 \sum_{k=1}^n f(\bar{1}) +_6 \sum_{k=1}^n f(\bar{1}) \quad (27)$$

$$= \sum_{k=1}^n (f(\bar{1}) +_6 f(\bar{1}) +_6 f(\bar{1})) \quad (28)$$

$$= \sum_{k=1}^n \bar{0} = \bar{0} \quad (29)$$

以上により $f(a) +_6 f(a) +_6 f(a) = \bar{0}$ である。

4. 群準同型 $\mathbb{Z}/9\mathbb{Z} \rightarrow \mathbb{Z}/6\mathbb{Z}$ の総数を答えよ。

.....

準同型写像は $f(\bar{1})$ が何になるかで具体的に定まる。

$f(\bar{1}) = \bar{1}$ 、 $f(\bar{1}) = \bar{3}$ 、 $f(\bar{1}) = \bar{5}$ の場合、 $f(\bar{1}) +_6 f(\bar{1}) +_6 f(\bar{1}) \neq \bar{0}$ となる為、準同型は存在しない。

$f(\bar{1}) = \bar{2}$ の場合、 $f(\bar{2}) = f(\bar{1} +_9 \bar{1}) = f(\bar{1}) +_6 f(\bar{1}) = \bar{4}$ となる。これを $\mathbb{Z}/9\mathbb{Z}$ の他の元についても行くと次が得られる。

$$f(\bar{0}) = f(\bar{3}) = f(\bar{6}) = \bar{0} \quad (30)$$

$$f(\bar{1}) = f(\bar{4}) = f(\bar{7}) = \bar{2} \quad (31)$$

$$f(\bar{2}) = f(\bar{5}) = f(\bar{8}) = \bar{4} \quad (32)$$

$f(\bar{1}) = \bar{4}$ の場合、同様に考えると次のようになる。

$$f(\bar{0}) = f(\bar{3}) = f(\bar{6}) = \bar{0} \quad (33)$$

$$f(\bar{1}) = f(\bar{4}) = f(\bar{7}) = \bar{4} \quad (34)$$

$$f(\bar{2}) = f(\bar{5}) = f(\bar{8}) = \bar{2} \quad (35)$$

$f(\bar{1}) = \bar{0}$ の場合、全ての要素を $\bar{0}$ と対応づけるため f は零写像となる。

以上により f の総数は 3 である。
